

三島由紀夫 略年譜

— 演劇上演を中心とした戯曲リスト —

戦後の日本文学を代表する作家の一人。代表作に『仮面の告白』『潮騒』『金閣寺』、『豊饒の海』四部作など。人工性、構築性にあふれる唯美的な作風が特徴。戯曲も数多く執筆、翻訳を介し欧米でも紹介され、高い評価を得ている。



一月十四日、東京市四谷区（現新宿区）に生まれる。本名…平岡公威。

六歳
学習院初等科入学、この頃から詩歌・俳句に興味を持ち始める。

十二歳
歌舞伎好きの祖母に連れられ、最初に観た歌舞伎が『忠臣蔵』、次いで『勧進帳』。

十三歳
ワイルド、コクトーの詩を読み、詩作に熱中する。

十四歳
『東の博士たち』一幕を学習院『輔仁会雑誌』に発表。

十六歳
『三島由紀夫』のペンネームを初めて使い、『花ざかりの森』を発表。

十七歳
歌舞伎鑑賞の詳細な劇評と舞台スケッチを書き始める。

二十二歳
東京帝国大学法学部卒業、大蔵省銀行局に勤務（翌年退職、創作活動に専念する）。

二十三歳
処女戯曲『火宅』（※翌年俳優座創作劇研究会初演（演出…青山杉作））

二十四歳
初の書き下ろし長編『仮面の告白』刊行、作家的地位を確立。

二十五歳
『燈台』（大阪放送劇団・関西実験劇場初演（演出…小山賢市）、翌年三島の初演出で俳優座創作劇研究会上演）

二十六歳
『邯鄲』近代能楽集ノ内（文学座アトリエで初演（演出…芥川比呂志））

二十七歳
『綾の鼓』近代能楽集ノ内（翌年俳優座勉強会で初演（演出…島田安行））

二十八歳
『卒塔婆小町』近代能楽集ノ内（文学座アトリエで初演（演出…長岡輝子））

二十九歳
『夜向日葵』文学座初演（演出…長岡輝子）

三十歳
『若人よ蘇れ』（俳優座初演（演出…千田是也））

三十一歳
『班女』近代能楽集ノ内（三十二年に同人会初演（演出…田中千禾夫））

三十二歳
『熊野』（蒼会により歌舞伎座で初演（演出…三島、振付…藤間勘十郎））

三十三歳
『恋を開く酒の鍵』第二、四景（日劇ミュージックホール（演出…丸尾長頭））

三十四歳
『船の挨拶』（文学座アトリエで初演（演出…三島））

三十五歳
『三原色・附演出覚書』、『白蟻の巣』（青年座初演（演出…菅原卓・阿部広次））※第二回岸田演劇賞

三十六歳
ラシヌ原作『フェードル』による『芙蓉露大内実記』（吉右衛門・猿之助劇団初演（演出…三島））

三十七歳
『鹿鳴館』（文学座創立20周年記念公演で初演（演出…松浦竹夫））

三十八歳
『コクトーの映画 オルフエ』より舞踊劇『オルフエ』（喜多村峰端新作舞踊発表会で初演（演出…三島））

新国立劇場での
三島作品の上演

『サド侯爵夫人』
（2003年（演出…鍾下辰男））



『近代能楽集』『綾の鼓』『明法師』
（2008年（綾の鼓）演出…前田司郎・明法師）演出…深津篤史）



三十三

(一九五八)

三十三歳
六月一日、川端康成の媒酌により、画家杉山寧の長女瑤子と結婚。
『道成寺―近代能楽集ノ内』(五十四年「三島由紀夫近代能楽集」上演委員会により初演(演出…芥川比呂志))
『薔薇と海賊』(文学座初演(演出…松浦竹夫)) ※週間読売新劇賞
『むすめこのみ帯取池』(吉右衛門・猿之助劇団で初演(演出…久保田万太郎))
西独で『近代能楽集』(卒塔婆小町・綾の鼓・郡・美ノ上)上演、
のちアメリカ・スウェーデン・フランス・オランダ・オーストリア・ポーランド・キューバで翻訳上演される。
三十四歳

三十四

(一九五九)

『愛の不安』(文学座勉強会で初演(演出…水田晴康))
『熊野―近代能楽集ノ内』、『不道德教育講座』(松竹新喜劇で公演(脚色・演出…館直志))。
写真集『六世中村歌右衛門』を編集、同書に『六世中村歌右衛門序説』を発表。
『女は占領されない』(越路吹雪主演、東宝現代劇で初演(演出…長岡輝子))
『桜姫東文章』監修(歌舞伎座で上演(演出…久保田万太郎))
九月、テネシー・ウィリアムズと会い、語る。
三十五歳

三十五

(一九六〇)

『熱帯樹』(文学座初演(演出…松浦竹夫))、
ワイルド作 日夏耿之助訳『サロメ』(文学座初演(演出…三島))。
鈴木力衛・長岡輝子・鳴海四郎・安堂信也とともに文学座の企画参与となる。
『弱法師―近代能楽集ノ内』(四十年、劇団NLT初演(演出…寺崎嘉浩))
三十六歳

三十六

(一九六一)

『橘づくし』(新派公演(脚色・演出…榎本滋民))、
『十日の菊』(文学座創立二十五周年記念公演で初演(演出…松浦竹夫)) ※第十三回読売文学賞(戯曲部門)
三十七歳

三十七

(一九六二)

『源氏供養―近代能楽集ノ内』、江戸川乱歩原作『黒蜥蜴』
(吉田史子プロデュースで初演(演出…松浦竹夫、主演…水谷八重子・芥川比呂志))
『鹿鳴館』(新派で初めて上演(演出…成井市郎))
三十八歳

三十八

(一九六三)

芥川比呂志・仲谷昇・岸田今日子ら二十九名が文学座を去り、新たに現代演劇協会・劇団雲を結成。三島は文学座に残り、理事となる。
サントウ原作『トスカ』潤作(文学座で公演(演出…成井市郎))
文学座のために書いた『喜びの琴』が座内の反対で上演中止となったため
『文学座諸君への「公開状」―芸術には針がある』(朝日新聞)を発表。同座を脱退。
矢代静一・松浦竹夫・賀原夏子・中村伸郎ら十四名がこれに続く。
日生劇場のスタッフとなる。
三十九歳

三十九

(一九六四)

劇団NLT結成、岩田豊雄とともに顧問になる。
『喜びの琴』(日生劇場で初演(演出…浅利慶太))
『箱根細工』(藤山寛美らにより初演(脚色・演出…館直志))
『恋の帆影』(水谷八重子らにより日生劇場初演(演出…浅利慶太))、
『絹と明察』 ※第六回毎日芸術賞
四十歳

四十

(一九六五)

『弱法師』『斑女』(アートシアター新宿文化において劇団NLT初演(『弱法師』演出…水田晴康、『斑女』演出…寺崎嘉浩))
『サド侯爵夫人』(劇団NLT初演(演出…松浦竹夫)) ※第二十回芸術祭賞演劇部門
四十一歳

四十一

(一九六六)

ユイゴ原作『リュイ・プラス』潤色(劇団NLT初演(演出…松浦竹夫))
『アラビアンナイト』(北大路欣也・水谷良重らで日生劇場初演(演出…松浦竹夫))
四十二歳

四十二

(一九六七)

国立劇場の理事となる。
『三原色』(アンダーグラウンド蠟座で上演(演出…堂本正樹))
『朱雀家の滅亡』(劇団NLT初演(演出…松浦竹夫))
『サド侯爵夫人』ドナルド・キーン訳でアメリカ・グローブプレス刊行、のち英・仏で翻訳出版。
四十三歳

四十三

(一九六八)

劇団NLTを退団、松浦竹夫・中村伸郎らと劇団浪漫劇場を創立、幹事となる。
『聖女』(アンダーグラウンド蠟座公演(演出…堂本正樹))
バレエ『ミランダ』(明治百年記念芸術祭バレエ特別公演で公演(作曲…戸田邦雄、演出…橋秋子))
コクトオ原作『双頭の鷲』監修(天の会第一回公演で初演(演出…松浦竹夫))
『わが友ヒットラー』(翌年、劇団浪漫劇場旗揚げ公演で初演(演出…松浦竹夫))
四十四歳

四十四

(一九六九)

『癪王のテラス』(劇団雲・東宝提携で初演(演出…松浦竹夫))
『春の雪』(東宝現代劇特別公演(演出…脚色…菊田一夫))
サルドウ作『皇女フェドラ』松浦竹夫と共同監修(劇団浪漫劇場公演(演出…松浦竹夫))
歌舞伎『椿説弓張月』(国立劇場開場三周年記念公演で初演(演出…三島))
四十五歳

四十五

(一九七〇)

人形浄瑠璃『椿説弓張月・上の巻』完成
十一月二十五日、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地東部方面総監室で自決。

四十六

(一九七一)

『サロメ』(劇団浪漫劇場公演(演出…三島))
文楽『椿説弓張月』(国立劇場開場五周年記念公演で初演(脚色・演出…山田庄一))

五十一

(一九七六)

オペラ『金閣寺』(ドイツで初演(作曲…黛敏郎、演出…グスタフ・ゼルナー、脚本…クラウス・ヘンネベルク))
オペラ『鹿鳴館』(新国立劇場で世界初演(作曲…池辺晋一郎、上演台本・演出…鷗山仁))

五十二

(二〇一〇)

オペラ『鹿鳴館』(新国立劇場で世界初演(作曲…池辺晋一郎、上演台本・演出…鷗山仁))



『朱雀家の滅亡』
(2011年)演出…宮田慶子



『白鶴の巢』
(2017年)演出…谷賢二



オペラ『鹿鳴館』(2010年)

撮影…三枝近志

撮影…特古正彦